

【原田禎夫ゼミナール】「4 大学対抗ディベート大会」に参加しました。

2019/07/8

6月30日(日)、関西大学 林ゼミナール、関西学院大学 高林ゼミナール、同志社大学 伊多波ゼミナール、そして本学 原田ゼミナールによる、「4 大学対抗ディベート大会」が開催されました。

この大会は、大学の枠を越えて10年間続いている取組みであり、それぞれの大学が順番に開催場所となっています。今年は当番校の関西大学で開催されました。

本学 原田禎夫ゼミナールからは3年次生23名がA・B・C・D班に分かれて参加しました。当日は13時から開会式があり、13時20分から第1ディベート、14時30分から第2ディベート、15時40分から第3ディベートが行われ、各回2~3試合、計7試合が開催されました。

第1ディベート	
①キャッシュレス	同志社大学 A — 関西大学 A
②消費税増税	同志社大学 B — 大阪商業大学 A
第2ディベート	
①大学授業料免除	同志社大学 C — 関西大学 B
②飲食店全面禁煙	関西学院大学 — 関西大学 C
③全小売店でのビニール袋配付禁止	同志社大学 E — 大阪商業大学 D
第3ディベート	
①たばこ増税	大阪商業大学 B — 関西大学 D
②高齢者の免許返納義務化	同志社大学 D — 大阪商業大学 C

第1ディベートでは、「消費税増税」について、本学 A 班(肯定側)が同志社大学 伊多波ゼミナール B 班(否定側)と競い合いました。本学の肯定側立論に対する反対質問への回答が資料不足であると指摘され、立論が棄却された形となり、結果は敗れてしまいました。

第2ディベートでは、「全小売店でのビニール袋配付禁止」について、本学 D 班(肯定側)が同志社大学 伊多波ゼミナール E 班(否定側)と競い合いました。否定側の質問に対して適切な資料及び具体的数値データ等の提示ができなかった点から肯定側立論が成り立たないと指摘され、かつ否定側が立てるデメリットを崩すことができず、第1ディベートに続いて敗れました。

第3ディベートでは、「たばこ増税」について本学 B 班(肯定側)が関西大学 林ゼミナール D 班(否定側)と、また「高齢者の免許返納義務化」について本学 C 班(否定側)と同志社大学 伊多波ゼミナール D 班が競い合いました。

「たばこ増税」について肯定側となった本学 B 班は立論を証明する資料の準備もしっかり行っており、否定側関西大学に対して根拠資料の不備を指摘、また立証が不明確な点を指摘するなど相手方の立論を崩すことができ、勝利することができました。

第3ディベートの別の一戦に臨んだ本学C班(否定側)と同志社大学伊多波ゼミナールD班は互いに根拠資料の不備やあいまいな部分を突きながら、お互いに立論を崩しきるところまでには至りませんでした。判定員の採点も56対53と3点差で否定側の本学C班の勝利となりました。

最終結果は本学の4つの班は2勝2敗と昨年の1勝2敗を上回ることができました。

最後に、閉会式にて先生方から「ディベートの方法、手法についてもう少し勉強が必要と思われる場面がみられた。」「このような場数を踏むことが何か言われた時に切り返して言うことができるし、そういう場面に活用できる。」など講評をいただきました。

各対戦後、本学学生の多くは対戦相手の資料のボリューム、提示方法等、自分たちの準備の差を痛感しました。また「資料は十分に準備をしていたにもかかわらず、緊張して提示ができなかった」など反省していました。

今回の取材にご尽力いただきました、関係者の皆さま、ありがとうございました。



<開会式の様子①>



<開会式の様子②>



<判定員の様子>



<司会・タイムキーパーの様子>



<ディベートの様子(本学A班)>



<ディベートの様子(本学B班)>



<ディベートの様子(本学C班)>



<ディベートの様子(本学D班)>



<作戦タイムの様子(本学A班)>



<作戦タイムの様子(本学D班)>



<勝利した本学B班>



<勝利した本学C班>